**「ＥＳＤ、SDGｓ連続Ｗｅｂ講座」参加者124名の振り返りから （2021年７～８月）**

〇時代の変化に伴い、教育の見直しを図る必要があるのだと思いました。子どもたちが主体となり、知識を身に付けるだけではなく、自ら考えて行動するような教育が少しずつ進められているので、自分も教室内で意識して子どもたちと関わりたいです。

〇SDGｓというと問題が大きくて、生徒は自分たちのこととして課題を捉えることができないのではないかと思っていましたが、今回の演習を通して、生徒自身に問題に気づかせ、火をつけさせることが重要だと思いました。

教科１つだけの実践ではなく、各教科が連携し、ESDカレンダーのもと、生徒を中心に実践していくことが大切だと思いました。

〇自分は、社会科担当なので、道徳と３年の公民分野の連携を図りながら授業を作ってみました。このような取組を他の教科でも進めていきたいと感じました。第８回の授業は、中学生にも取り組めそうなシナリオなので、２学期に取り組んでみたいと感じました。

〇教育の場面で、今後大切になるワードだとSDGsを認識していたが、今回の講座を通して、どのように教育活動に活かしていくのかつかむことができた。特に、高学年の授業の中で様々な場面に応じて話すとよいと思う。日頃から「問題に気づく力」「学び、判断し、取り組む力」「人を動かす表現力」を育てられるような活動を目標にしていきたい。

〇ESDの目指すところと新しい学習指導要領の目標が、かなり似ていることに驚いた。プレゼン資料では、小学生段階での具体例が多く取り上げられていたが、中学生、高校生での教科横断的で生徒の心に火をつけるような題材を作ってみたいと考えている。

〇今年度、1年生の現代社会の授業を担当しており、SDGsをテーマとしたスピーチを授業内で実践していたので、今回、学んだ指導計画や学習カレンダーを生かして、課題解決型の授業へと発展させたいと考える。また、SDGsの目標を考える上で、社会科が扱う政治経済や歴史の他に化学や情報などの他教科で学ぶ知識も必要なので、他教科との連携も教科横断的な学習を実施するうえでは、欠かせないと感じた。

〇SDGsについて理解はしているが、授業で扱うにはどのようにしたらよいのかと悩んでいた。学習指導要領が変わり、授業にもより一層の工夫が必要であり、より授業の工夫も求められている。しかし、そのことは心の片隅に置いてある状態が多い。

　今回の演習・研修を基に、自身の課題や悩みを解消する手だてのヒントを得ることができた。実際に

事例を見て、やり方を学んだ。他の授業でも生かすことができると考える。最初は授業用プレゼンに

似た形でもよいので、新たな授業スタイルを行っていきたい。それを踏まえて、自身の授業の幅を広

げていきたい。

〇子どもの教育に関することだけではなく、自身が生きていくうえで意識すべきことを学ぶことができ

た。本質を見抜き、判断し、自分で考え、行動に移していく力が必要であるということを、子どもに

対しての指導の中に活かしていくのはもちろん、自分の生活の中でも取り入れていきたい。

〇教科横断をピコ太朗の歌脳ように考えればよいという考え方を聞いて、難しく考えていた教科横断がわかりやすくなった。各教科の共通点をつなげていくことができれば、教科横断的な学習を展開できると思った。今後は、子どもの学びに火をつけることを意識して、授業づくりをしていきたい。